

特集：キャリア支援

就職活動体験記 ～自分と正直に向き合った半年間～

浅井 庸子（筑波大学 人間総合科学研究科博士前期課程 2 年）

<はじめに>

私は就活を始めた当初、「自分の仕事（専門）とすること以外からの情報や刺激を多く受け、自分がその分野で成長し続けることのできる職業が良い」という漠然とした仕事像しか持っていませんでした。そのため、初めから業種を絞った筋だった就活をすることができず、自分の適性を探ることに大半の時間を費やしてしまいました。

就職活動体験記のお話を頂いた際に上記の事から書かせて頂くことを躊躇しましたが、自分の就活を省みて、勉強になった点、楽しかった点、反省点や自分の考えがどう変化していったかなど、同じ悩みを持つ方々の御参考になれば、と書かせて頂くことに致しました。

<就活の流れ>

●6月～：リクナビ・マイナビに登録

6月になるとリクナビやマイナビといった就活サイトがオープンします。登録すると、サイトを通じて説明会の予約やエントリーがスムーズに行えるようになります。サイトによって掲載されている企業が異なる場合があるので、複数登録することをお勧めします。私はリクナビなどを通してこれまで知らなかった B to B (Business to Business) の業界にも自分の専門を活かせる業界があると知り、視野が広がりました。

都内の学生は就活への意識が高く、また外部が「今年の就活は厳しいから早めに準備を」と囁く中、この時点では就活とは何か、ということについてわからない点が多くやきもきしました。私はまずは自己分析を始めることをお勧めします。自己 PR に使える経験を夏の間に作ることも有益だと思います。

●10月～：エントリー・説明会ラッシュ

自分の専門に近い製薬（研究職・開発職）を始め、食品、文房具、金融、出版、広告、化粧品、化学、コンサルなど少しでも興味を持った業種の説明会に参加。職種についての理解をも深めることができました。また何社も見て回ることによって業界、会社ごとのカラーがよくわかるようになり、自分と相性の良い業界が絞れてきます。

●12月～：選考開始

12月になると外資系、ベンチャー、食品系の選考が開始されます。実際に選考を受ける中でさらに自分の向き、不向きがわかるようになります。

以下は私の受けた業種で、気付いた点をまとめてみました。

【製薬・食品】

私は就職活動を始めるまで開発職という職種自体を知りませんでした。開発職は製薬の最終段階において臨床試験を行うことで、薬の安全性や有効性を検証する職種です。全国の医療機関を渡り歩き、医師と協力して臨床試験を進めなくてはならないため、ネットワークの軽さやタイムマネジメント、コミュニケーション力が求められます。

私は研究職・開発職両方の選考を受ける中で、自分の研究者への適性が低いことを自覚しました。先のように考えた理由は「研究所や工場が地方にあり、仕事上で同業以外との接点がありません」「比較的短期の目標の中で結果が出せない」と考えたためです。また食品の研究職においても「食品開発業務の前に一定期間の工場勤務（生産系）の義務のある会社が多い」「企業ごとの強みがありません」「比較的に短期の目標の中で結果が出せない」と考えたためです。また食品の研究職においても「食品開発業務の前に一定期間の工場勤務（生産系）の義務のある会社が多い」「企業ごとの強みがありません」「比較的に短期の目標の中で結果が出せない」と考えたためです。

開発職について少し補足しておくと、開発職は製薬会社での募集と CRO（製薬企業から臨床開発を受託する機関）での募集があります。CRO は「幅広い薬の臨床開発に関わることができるため、開発士としてのスキルを高めることができる」「中立な目線に立って試験を行える」など、製薬会社は「自社製品の臨床開発に関わることができるため高いモチベーションを保つことができる」などそれぞれの魅力があります。双方においてグローバルスタディの必要性が高まっており、英会話力がかなり問われます。

【出版・新聞・広告】

出版の方は参考書の編集・制作に関わりたいたいと思いエントリーしましたが、修士ということで、受けた 3 社全てにおいて医学書の編集に回されてしまいました。また出版・広告系は ES (entry seat) の書く量が多く、専門試験用の勉強（時事問題や作文試験のための対策）が必要です。さらに選考が 7 次や 8 次までであるところが大半なので、時間と費用を多く費やすことになります。採用人数が一人、二人のところが多いので内定を一度頂くと辞退するのがかなり難しいです。

【SI（システムインテグレーター）】

銀行や金融などのケースで多いように、リクレーターが付いてくるところがほとんどです。リクレーターの方とマメに連絡を取り、こちらの熱意を伝えることで選考を突破できると感じ

ました。プログラミングの技術云々よりも、理論的に話せるかどうかが鍵だと感じました。

【メーカー事務職（化粧品・化学系・文房具など）】

事務職はほぼ最初は営業から入ると考えて間違いないです。修士からの事務職採用は、採用コストなどの面から学部卒よりも不利だと思います。

【ベンチャー系】

選考が早いので、面接の練習という意味で受けました。しかし個人的にはベンチャー独特の面接様式では後の面接の参考にはならないかな、と感じました。将来自力で起業したい、一つの事よりも多数のことに挑戦したいという思いの強い人が多いようです。

＜インターンシップについて＞

インターンに参加することは必ずしも容易ではありません（特に時間の関係で）。しかしながら、インターンに参加した学生の中から採用するという形を採る企業は少なくなく（表向きはインターン参加と合否は関係がないと言っている）、しっかりと情報を得てからの参加の方がいいと思います。

＜OB/OG 訪問について＞

業界によって OB 訪問をしたことを重視するか否かは違うようです。業種にもよりますが、私個人の意見としては、OB 訪問はそこまで重視しなくてもいいと考えています。多少フランクな場といえども OB の方達は会社の顔としていらっしゃっているため、説明会で質問できること以上の解答は得られないと感じました。

＜就活本・新聞について＞

ES、面接によって臨機応変に対応する必要があります。本をそろえるよりも、先輩の ES のコピーを頂くなどの方が有益だと思います。多くの人が就活用に日経新聞を購読する中、私は堅苦

しい内容に頭が付いていかず朝日新聞を購読していました。しかしながら研究職で受けた企業で、新聞の内容について聞かれたことはまずありませんでした。事務職の採用でも記事について聞かれることは稀で、インターネットのトップ記事を読んでいると事足りるかな、と感じました。

＜その他＞

よく就職活動は一人でするものではない、ということを聞きますがその通りだと思いました。就活は情報戦でもあります、そのため説明会や面接の場では積極的に就活友達の輪を広げることをお勧めします。私は面接の場で仲良くなった人と Twitter のアカウントを交換して情報交換のツールとして活用しました。企業によっては人事部が Twitter のアカウントを持っており、フォロー限定の飲み会の企画を行ったりするところもあるため活用しない手はないと思います。説明会で一方的な情報を受け取るだけでなく、活発な意見交換をして企業に対して多角的な視点を持つことが面接の場でも役に立つと感じました。

また最初は抵抗があるかもしれませんが、ES を添削しあうことも大切だと感じました。自分で添削を重ねた自己 PR を友達に見せた際に、「これって誰にでも言える体験だね？」と言われずごく衝撃を受けたことを覚えています。

＜最後に＞

約半年の就職活動の結果、SI、出版、CRO の 3 社から内定を頂きました。正直申し上げますと、内定を頂いた SI、出版社は大手企業だったため内定承諾書を出す際に大変悩みましたが。しかし一生を通して自分の興味を持てること、自分が大学を選んだ原点などを考え、最終的に臨床開発の道に決めました。私は就活を通して、多々の面において自分の成長を感じています。是非皆さんも人との出会いや、新たな自分への気づきを楽しんでください。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

Communicated by Jun-Ichi Hayashi, Received September 7, 2011.

Revised version received September 13, 2011.